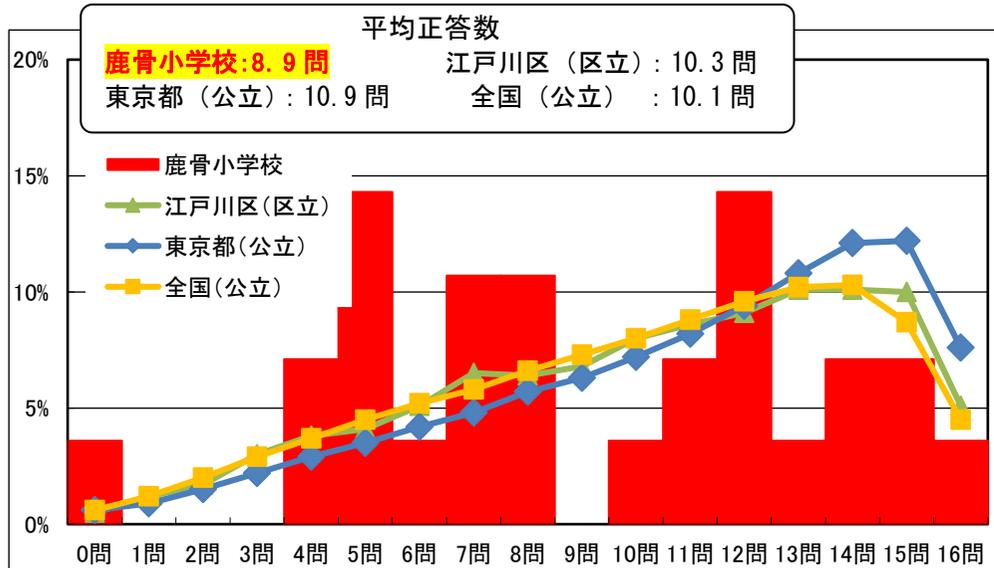


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 鹿骨小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

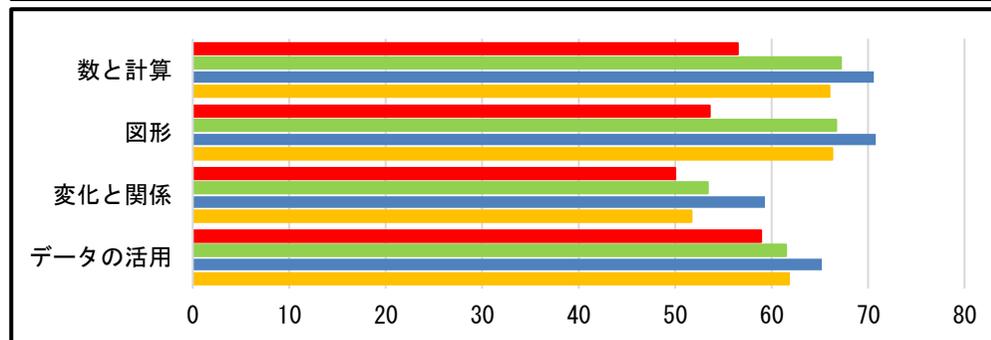
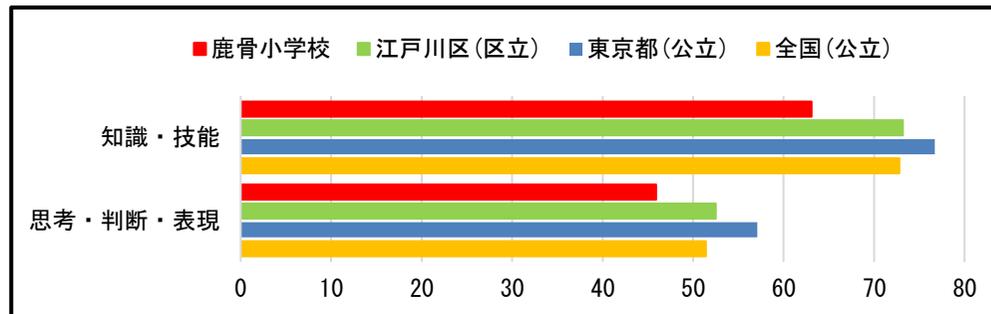
算数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
鹿骨小学校	17.8	17.9	21.4	42.9
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

【平均正答率の差】

鹿骨小学校	56%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	12ポイント

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

本校児童と江戸川区(公立)との平均正答率の差は8ポイント、全国(公立)との差は12ポイントであった。領域別に見ると、「変化と関係」に課題が見られた。問題形式で分析すると、「道のり・速さ・時間」の関係や「図形の体積」の問題に課題があることが分かった。課題の解決に向けて本校では、習熟度別指導を継続していくとともに、東京ベーシックドリル診断を学期ごとに実施し、個人カルテを基にした個別の課題に焦点を当てた指導を、朝学習や放課後補習教室等の時間で行い、一人一人の課題を解決していく。